

近畿地方整備局
資料配付

配布日時	平成26年7月23日 14時00分
------	----------------------

件名	大阪湾で年に一回の健康診断を実施します ～産官学で大阪湾全域520地点の水質一斉調査～
----	--

概要	<p>平成16年度から年に一度、大阪湾の水質汚濁が最も懸念される夏場において、国・自治体・研究機関・企業・学校など36機関が一斉に水質調査を実施しています。</p> <p>※今回で11回目となる一斉調査では、8月5日（火）を中心に36機関が協力して、海上196地点、河川324地点、計520地点で測定を行います。</p> <p>※大阪湾の健康状況として、大阪湾と大阪湾に入ってくる河川の「水のきれいさ（COD）」や「生き物の棲みやすさ（DO）」、「透明度」などを測っています。</p> <p>※これまでの大阪湾再生水質一斉調査の結果と概要については、以下のURLから閲覧できます。 URL：<a href="http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/water/index.html">http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/water/index.html</a></p> <p>【取材について】 ○8月5日は船を準備し、<u>海上からの現場見学会</u>を予定しています（記者および調査関係者を対象に定員15名程度）。見学を希望される場合は<u>1週間前（7月29日）迄</u>に下記の問い合わせ先（湯浅）までご連絡下さい。</p>
----	---

取扱い	平成26年7月25日 14時00分 解禁
-----	----------------------

配布場所	近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、神戸海運記者クラブ、神戸民放記者クラブ、みなと記者クラブ
------	---

問合せ先	<ul style="list-style-type: none"> <li>●近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所 調査課 湯浅 楠勝 電話番号(直通)078-331-0058</li> <li>●大阪府 環境農林水産部 環境管理室 環境保全課 中村 智 電話番号(代表)06-6941-0351(内線3854)</li> <li>●兵庫県 農政環境部 環境管理局 水大気課 鶴川 正寛 電話番号(代表)078-341-7711(内線3386)</li> </ul>
------	---

# 「大阪湾再生水質一斉調査」

～ 大阪湾の健康状況を知るために、8月5日 各機関が一斉に水質調査を行います ～

水質汚濁が心配される大阪湾で、一年に一回の健康診断を行います。

大阪湾の健康状況を確認するため、大阪湾再生推進会議※1では国・自治体・研究機関などとの連携をはかり、「大阪湾再生」水質一斉調査として、一年の内で最も水質汚濁が懸念される夏場の一日を定め、一斉に水質調査を実施しています。

これまで、大阪湾の水質調査は、各機関が各々の目的に応じて個別に実施しており、云わば人間ドックのように頭の方からつま先まで、湾全体の健康状況まで確認することが難しい状況でした。

この一斉調査により、海の生き物の生息に影響を及ぼす貧酸素水塊※2の発生分布など貴重なデータの取得を通じて、大阪湾の汚濁メカニズムの解明に向けて努めてまいりたいと考えています。



(※1)大阪湾再生推進会議:

内閣官房都市再生本部事務局、国土交通省、農林水産省、経済産業省、環境省、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、(一財)大阪湾ベイエリア開発推進機構、大阪湾広域臨海環境整備センターで構成。  
事務局は、国土交通省近畿地方整備局(大阪府)、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構が運営協力。

(※2) 貧酸素水塊:

海中の酸素がほとんどなく魚介類が生息できない水域。夏場の大阪湾奥部を中心に頻繁に確認されている。

## 1. 一斉調査実施日 平成26年8月5日 (火) (実施日の前後に実施される調査も対象)

## 2. 一斉調査を行う地点

### 海上

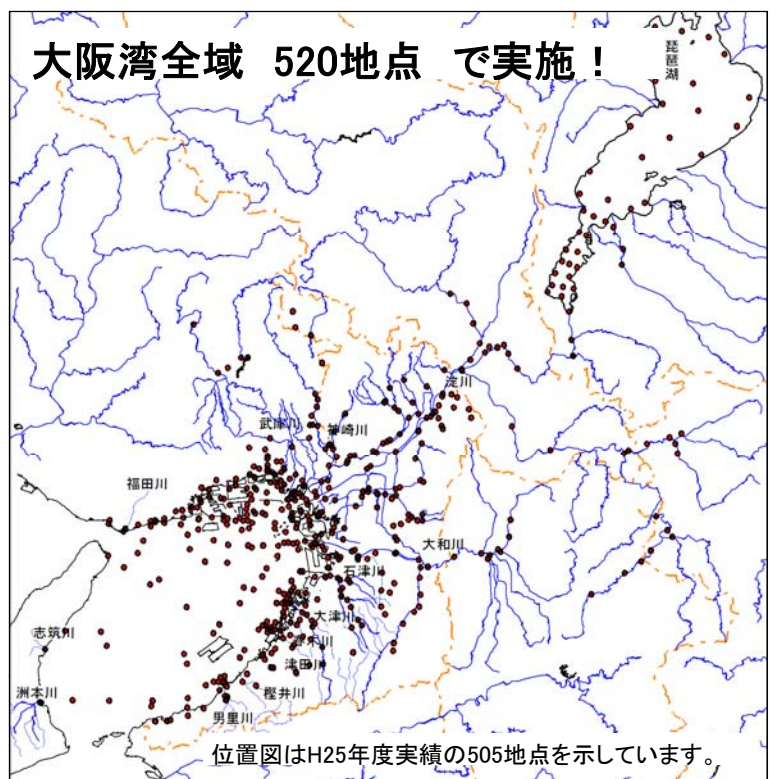
196地点

・国土交通省近畿地方整備局(神戸港湾事務所)	11地点
・第五管区海上保安本部	19地点
・大阪府環境保全課	15地点
・大阪府港湾局	4地点
・大阪府南部流域下水道事務所	16地点
・(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所	20地点
・大阪市環境局	6地点
・大阪市港湾局	6地点
・堺市	4地点
・兵庫県農政環境部環境管理局	13地点
・神戸市	22地点
・西宮市	6地点
・尼崎市	3地点
・大阪湾広域臨海環境整備センター	19地点
・阪神高速道路株式会社	1地点
・関西電力株式会社	1地点
・大阪ガス株式会社	1地点
・新日鐵住金株式会社	1地点
・JFEスチール株式会社	1地点
・東洋建設株式会社	1地点
・五洋建設株式会社	1地点
・日本ミクニヤ株式会社	4地点
・株式会社環境総合テクノス	1地点
・環境システム株式会社	3地点
・いであ株式会社	3地点
・三洋テクノマリン株式会社	4地点
・兵庫県立尼崎小田高等学校	1地点
・(独)国立環境研究所	7地点
・大阪市立大学	1地点
・大阪府立大学	1地点

### 陸上

324地点

・国土交通省近畿地方整備局(河川部)	105地点
・大阪府、兵庫県及び関係市	219地点



### 3. 共通測定項目

- ・「大阪湾再生行動計画」では「魚庭(なにわ)の海」の復活を目標に掲げており、その実現に向けて生物生息指標であるDO(溶存酸素量)、透明度、塩分、水温を海域の共通測定項目に設定。
- ・大阪湾に流入する河川では、陸域などから流入する汚濁負荷の指標であるCOD、窒素、りんなどを測定。

### 4. 期待される効果

- ・大阪湾全体の環境負荷の全体像の把握(貧酸素水塊の発生分布など)
- ・大阪湾の汚濁メカニズムの解明と藻場や干潟などの改善方策の効果的な対策手法の検討
- ・陸域からの流入負荷など、陸域と海域の関係の解明
- ・国、自治体、研究機関、企業などによる環境モニタリングネットワークの構築等

### 5. 取材について

- ・8月5日当日、船を準備し、海上からの現場見学会を予定しています。  
(記者および調査関係者を対象に定員15名程度)
- ・見学および現地取材を希望される方は、7月29日(火)12:00迄に下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所 調査課 湯浅 楠勝  
電話番号(直通)078-331-0058

### 6. 用語説明

#### 【溶存酸素量(DO)】

水に溶け込んだ酸素の量の事です。海底付近(下層、底層)では酸素が供給されにくく、海底付近で生活している生き物に影響を及ぼすことがあるため、本計画では下層DO(底層DO)を生き物の棲みやすさの指標としています。

#### 【化学的酸素要求量(COD)】

水中の有機物による汚濁状況を図る代表的な指標で、値が高くなるほど、水が汚れていることを示します。陸から流れ込む汚れによって増加するだけでなく、植物プランクトンの増殖によっても増加し、海面付近(表層)で高くなるが多いため、本計画では表層CODを水のきれいさの指標としています。

#### 【透明度】

・海や湖の水の濁りの程度を表す指標で、値が低いほど水中に届く光の量が少なく、光合成を必要とする藻類などの水中植物の分布下限水深が浅いことを示します。

#### 【全窒素、全リン】

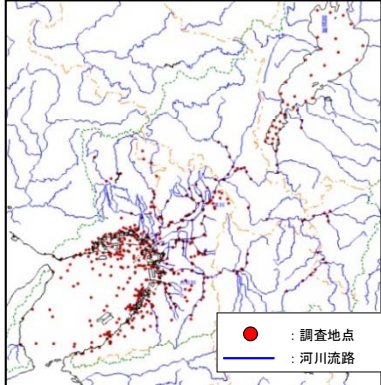
海域の富栄養化状況を表す指標で、値が高いほど海域の富栄養化が進行していることを示します。富栄養化が進むと、植物プランクトンが増殖し、海中の有機物が増加するとともに、これらの有機物を分解する際に酸素が消費され、底層の溶存酸素量(DO)が低下します。

# 平成25年度 大阪湾再生水質一斉調査の結果(概要)

平成25年8月1日を中心に実施した前回の調査結果概要を以下に示します。

## 1. 調査概要

平成25年度は、海域200点、陸域の河川305点の計505点で調査を実施しました。



平成25年度調査位置



現地調査状況



分析状況

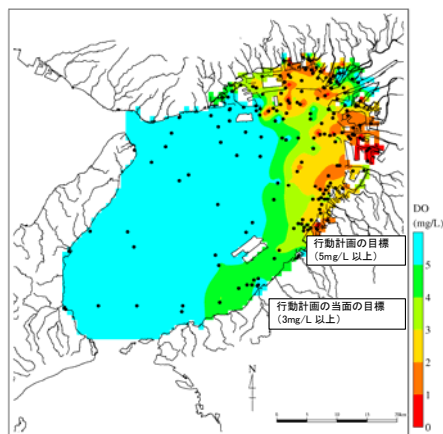
平成16年度から25年度の実施状況は以下のとおりです。

		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
海域	地点	160	206	217	208	194	214	204	199	198	200
	機関	12	20	22	24	28	31	28	28	29	30
陸域	地点	250	242	266	253	246	262	266	296	298	305
	機関	18	17	17	17	16	16	16	16	16	16

## 2. 底層DO

・底層のDOは、大阪湾北東側の多くの海域で3mg/L未満の低い値となっていました。これは、大阪湾再生行動計画の目標値(当面の目標である3mg/L)を達成していない状況です。

・一方、大阪湾西側の海域では、5mg/L以上であり、東側と比較して高く、大阪湾再生行動計画の目標値(5mg/L)を達成していました。

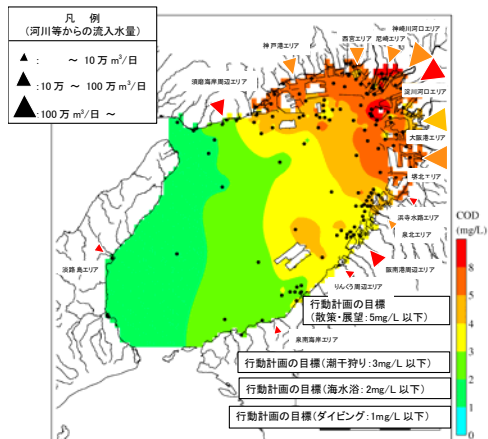


## 3. 表層COD

・陸域からの流入負荷量は、淀川や大和川が流入する大阪湾北東側で大きくなっています。

・表層のCODは、陸域からの流入負荷量の多い大阪湾北東側の岸近くの海域を中心に5mg/Lを超える高い値となっていました。これは、「散策や展望に適した水質レベル:5mg/L以下」を達成していない状況です。

・一方、大阪湾西側では3mg/L以下であり、東側と比較して低くなっていました。



## 4. 透明度

・透明度は、大阪湾北東側の海域では、3m以下の低い値を示していました。

・一方、大阪湾西側の海域ではおおむね3m以上であり、東側と比較して高くなっていました。

